



和漢朗詠集卷上

春

立春 早春 喜興 喜悅 子日付若菜  
三月三日付桃花 暮春 三月之 宜三月  
鶯 燕 子 梅甘 柳花 燕  
躑躅 秋夕 燕

夏

更衣 首夏 夜涼 端午 網涼 晚夏  
芭蕉 蓮 荷 魚 鱉 扇











坐臥の形も亦も此の結酒喜風雨の情管三品  
さうさうのちを人たのこもあれや  
さうさうのちを人たのこもあれや  
赤人  
春のあをのちを人たのこもあれや  
忠奉

有獨古懐深松月臨花同懐少の表白  
春のあをのちを人たのこもあれや  
躬恒

倚松樹の摩獨習風名を那紀や  
菅  
和菜養の味は初れ味を其調也

倚松根摩獨千年の五箇の尊敬  
初梅花排路二月の雪を其衣  
初の白雪の影をこよふ松のあをのちを人  
あをのちを人たのこもあれや  
忠奉  
あをのちを人たのこもあれや  
能宣  
初の白雪の影をこよふ松のあをのちを人  
清心

若菜  
野中若菜世も推之其心燈下和菅  
美徳人たのこもあれや



あはれ〜ハワ〜飛つ子まゝしか〜せうの  
あはれ〜の〜ハワ〜をやく〜る  
あはれ〜ハワ〜飛つ子まゝとあ〜の〜  
さよめ〜の〜あ〜とあ〜の〜  
い〜〜〜い〜人〜の〜てま〜の〜に  
う〜こ〜え〜つ〜あ〜の〜ワ〜れ〜な〜ら〜と  
貫之 亦人 人丸

二月 云々 付 梅花

春來遍是枕をふあ〜仙源何あ〜る王維  
喜〜多〜月〜く〜三〜終〜了〜破〜ふ〜も〜枕〜ま〜菅  
し〜楚〜や〜糸〜后〜一〜は〜し〜得〜あ〜枝〜し〜枕〜せ  
あ〜段〜登〜き〜華〜院〜院〜巴〜字〜の〜知〜枕〜勢  
思〜純〜文〜の〜歌〜風〜流〜益〜を〜し〜玉〜し〜徳

新小序云尔

煙霧遠近應河戸柳葉沙你似勅老菅丞相  
あ成巴字初三日你起周の好我我我我  
微石運來心稿約常流道色守先透雅規  
ああ〜依〜深〜首〜波〜眼〜特〜嬌〜曉〜風〜後〜吹  
あ〜云〜〜唐〜先〜後  
あ〜ら〜と〜せ〜よ〜あ〜ら〜と〜あ〜枕〜の〜こ〜や〜し〜り  
あ〜ら〜と〜せ〜よ〜あ〜ら〜に〜ら〜ら〜う〜な  
躬恒

あをなま

柳水松色子万然陽梅香出あ〜元稹  
位翻沙路初為曉秋綠燈子字海云菅丞相  
人世交少時次楷多ふ為表濁さる小野篁

月永



割白若愁々々好意云詰而何源順  
のつろ子を今月ハハにほふれと  
ちかふんくくは喜ををくあは 典風

三月

為さく不強春為人森堂狀風と白  
ふは風起を着爾索  
并院君宗消承なも多秋故是時春白  
惆悵春時為ふは紫藤を下御養昏白  
是春不用勅あま唯あは時をを管丞相  
あは龍え知あま之と春旅名を為あ管  
あまと角は城園を為あ風鳥入電尊敬

今のこととほるせせのぬとたての中  
あまのをやせ死をれののけりけ  
たれゆこれありぬる中とハセくまの  
あまこととをたなりぬるあれ 貫之  
あまこのもむと死をとあへたのおれぬ  
あまのあまハたしとまらぬ 全

三月

今月望在春三月割兄金後一月也 陸侍郎  
帰郷歌を更進め於記をく源順  
辞々舞降を翻翻お一月も色  
花梅の根を差物を給入家を記 藤

州林上

六



さくらのはれちるふりねるとしこゆ  
人のそり子ありはこやハきぬ

伊勢

雪

鶴既鳴也臣詩且為未出也  
誰家松樹雪啼白  
雪舞多  
咽房山雪啼鳥の音  
春風洗沈白  
菅三呂  
素性  
麗景殿  
女御  
中務

周郎之簪形物  
新花  
菅三呂  
素性  
麗景殿  
女御  
中務

菅三呂  
菅丞相

月水七







山崎とて侍らうとくへーけうやまの  
まうまのむめらむと死まう  
赤入

けうまごふととんとつひけうのむ  
それともみえにむのめらむ  
赤入

あやめとえとこれけうとらんらむ  
あやめとえとこれけうとらんらむ  
躬恒

梅舎務たきけうに昇復もま怒文  
元稹

淡紅鮮嬌仙方とととととととと  
橘正通

妓楚と衣懐素  
前中春王  
兼明  
紀存名

あやめとえとこれけうとらんらむ  
友則

あやめとえとこれけうとらんらむ  
花山院

あやめとえとこれけうとらんらむ  
柳

林崎門とて侍らうとくへーけうやまの  
白

あやめとえとこれけうとらんらむ  
全

あやめとえとこれけうとらんらむ  
全

あやめとえとこれけうとらんらむ  
江相公  
田達音



稽宅逆晴卷月暗塵地逐日多烟深 具平  
清心月夜交枝桂岩口風來浪濤驚 菅三品

あど色紙のいどよりうらうらとさうしむを  
るくもさくちれハ石ころみハよるる 貫之

はつられハあくうやを死よまのあいの  
いりうらうらあよありよらうらうら

あどやきのまゆよのれいどあどハ  
春のうらうらあそきあさうらうら 兼輔

花

む明上美煙形死九師く春務叫天 長讀  
山斜月空よあ養くは

地を清く藍海水とえ柳く火煙書白

是又八歌と役入あ満も然と秋味全

雪白雪風と低千歌万影く玉依枝菅三品

波浪表程一入再入る歌

誰病あ無心濃粒除く波交と誰病全

む身依收涙激そ秋物魚

那得く水別深あ抱粉く徒法英歌順

誰くとも心留人濃交く海糸條

織身何線誰多の裁あも振任る風 菅三品

と形あ深あ濃粒織あも風あも稍 源英明

如織あ風桂と功那唯織く織あも 源相規



世中入るるごとくめあうりをは  
ちのうららハのうけしりま  
業平

つゆらけをねんをうらうら  
ちりあんのらそらひしりへき  
躬恒

るるのやんうらうら  
てこそあうりこいへつとよきん  
素性

鳥居

鳥居をゆけを群樹流氷無ん自入  
羽鶴鳥をね付はる危を一時  
後頼  
鳥居をゆけを群樹流氷無ん自入  
羽鶴鳥をね付はる危を一時  
後頼

鏡周風翔は揚雲下橋姫神は世鏡管三品

さうさうさうさうさうさうさうさうさう  
貫之

このをさうさうさうさうさうさうさう  
公忠

躑躅

躑躅あふりお躑躅林を秘法白雲  
あはれ人ふた来把を念ふ意新は源順  
平貞文

鳥居をゆけを群樹流氷無ん自入  
清慎公

鳥居











跡見彩鳥 泣き濡れ心た集 納涼待 菅  
池冷水 露に伏交 移言風を つまみ 源央明

あつらふを おぼろごとく ありのまに 貫之

あつらふを おぼろごとく ありのまに 中務

あつらふを おぼろごとく ありのまに 惠慶

あつらふを おぼろごとく ありのまに 白

あつらふを おぼろごとく ありのまに 中務

あつらふを おぼろごとく ありのまに 春宮

あつらふを おぼろごとく ありのまに 白

あつらふを おぼろごとく ありのまに 伊勢

あつらふを おぼろごとく ありのまに 貫之

あつらふを おぼろごとく ありのまに 白

あつらふを おぼろごとく ありのまに 許澤

あつらふを おぼろごとく ありのまに 紀在昌

源央明

十四











あさぬとゆふささゆふよんささゆふ  
うさのささあさおとさうささぬの  
くゆつあよめさうゆきこのさあさ  
あさゆさちあさささあさあさ

敏行

能宣

早秋

但秋果落して伏古不知秋是二三  
極むる候秋也楓葉風涼秋意  
空東烈秋意涼を吹涼涼を吹涼  
あはささささささささささささ  
あさささのささあさあさあさあさ  
七夕

安貴王

信比が年長と乃竹半以と秋涼白

二平さささ事叙家信作と信五平 小野良村  
於西州秋意涼風吹く

菅

菅三品

菅輔昭

後江相公

人丸

貫之

躬恒

あひみん秋のうさささあさささ  
あさささあさささあさと秋枝乃  
あさささのうさささあさささ















見民形を并に拍くは調秋を福紀納言  
吹雪を京に七段

那那村岡を産る由泉也子不苦きと三善清母

京苑自然の物界権部を信をまじと一保胤

蘭を美は提樂は音舞は月也者中菅三品

あふくあくまがうりやかへんまのめ

をまきまうりなる一しきくめい

ひとくこの中あうへあへんまのめ

あやういほくともあやまくれる

九月

流山清為為固那為為及流雲潤

順  
彼行

須目流流録表乞以秋流をを流録全

文學業聖白狗系詞海議亦和を流録以言

山と流一あはもくまぬとほくろくも

あまこのまあまよまあまあま一も

くまろくあくあはのくくくくくく

くろくくくくくくくくくくく

めくくく

花をくくくくくくくくくく

流泉何れをくくくくくくくく

あまのあま一あまのあまのあまのあまの

あやあま一あまのあまのあまのあまの

月詠上

十一

良材











咸柳多花漫搖為秋也此句人必白  
梧楸龍甲一葉之由元流鶴塔背之順

數斤之紅纒綉

棋蓋ほ及杖穿朱實良之不深逸高相如

後抱履臨者相伝之事

逐風落葉定音著英滿心必以弄輕垂順  
逐相光為雲氣自每於声少淺草風 後中登

おはの川もみち系なるこの川らきの

中ののあれうをあらそしぬく人丸

種あのこしれとのようとなれれ社

とりれのとりあり子こをめれ 貫之

るる人もあくくちりぬるかくやりの  
ゆらちをよりのあしありとありと全

雁付帰宿

万里人南去三春存心亮あ知何歳白

月は光と河同舟

流流江之湖流流流彭張林琴存川来刘禹錫

の子あらん糖白さあ三坊存然平和杜荀崔

あらん難也未持鏡於上弦之月影奔後江相公

あらん易迷於車誤か下流之あ急

あらん不定為書之紙草池夜被河棧田連音

あらん玉此筆斜之柱喜若之鳥板ひ也管三品

あらん不花叙霸中結風樓清湖浪之也後中登三



あはれをよまのうらみはもてあはれ  
あはれなきもてあはれをけりてあはれん

友則

伊勢

山崎師馬料亭夢水面彩如未展市  
あはれなきもてあはれをけりてあはれん

都在中

伊勢

虫

切く晴多下夢 涼子裏林を思ゆ  
心白ね愁人耳

白

霜子旅旅思昔風枝未定名極涼  
床燈籠柳巷空常空秋空心氣孔穿  
山館の雨鳴自曉空多風空又感程を直轄

白

野相公

直轄

素性思き月夜晴望を以て月をき順

いさよんとあはれよあはれん秋あはれよと  
あはれよとあはれよとあはれよと

作者欠

きあはれよとあはれよとあはれよと  
あはれよとあはれよとあはれよと

素性

素

素性思き月夜晴望を以て月をき順  
いさよんとあはれよあはれん秋あはれよと  
あはれよとあはれよとあはれよと  
きあはれよとあはれよとあはれよと  
あはれよとあはれよとあはれよと

温庭筠

紀納言

能宣

貫之

明詠上







床之出り収まり赤葉庭中家や白紵衣管三品  
神ありさうりさうりさうりさうりさうりさ  
しられさうりさうりさうりさうりさ

白

一巻を焚く不秋好を温対中白  
年光日向の影ありさうりさうりさ  
たのむさうりさうりさうりさうりさ  
川をさうりさうりさうりさうりさ

貫之

冬風芳月は如鏡夕吹和歌利以刀  
風を易い六あき月銀は如鏡

白

良春道

ゆくやうりさうりさうりさうりさ  
さうりさうりさうりさうりさ

貫之

煙火

賞破疎疎追々熱煙帳紅煙  
看せぬさうりさうりさうりさ  
けさうりさうりさうりさ  
地時能くさうりさうりさ  
うりさうりさうりさうりさ  
うりさうりさうりさうりさ

霜

三秋岩花初白一松林表葉  
芳物秋を能くさうりさうりさ

温庭坊

白



軍を以て為す本深孤婦之徳上の你 紀納言  
感動先役の懐く世を

君子が你が心路を以て年晩後おれ 菅丞相  
おしくおれおれおれおれおれおれおれ

累積丸障を以ておれおれおれおれ 紀納言  
おれおれおれおれおれおれおれおれ

留

曉入梁を以ておれおれおれおれ 謝観  
おれおれおれおれおれおれおれおれ

浪河の洲に之を以ておれおれおれ 白  
おれおれおれおれおれおれおれおれ

おれおれおれおれおれおれおれ 紀納言  
おれおれおれおれおれおれおれおれ

おれおれおれおれおれおれおれ 型脚製  
おれおれおれおれおれおれおれおれ

おれおれおれおれおれおれおれ 尊敬  
おれおれおれおれおれおれおれおれ

おれおれおれおれおれおれおれ 源景明  
おれおれおれおれおれおれおれおれ

おれおれおれおれおれおれおれ 是則  
おれおれおれおれおれおれおれおれ

おれおれおれおれおれおれおれ 友則  
おれおれおれおれおれおれおれおれ

月掛







和漢詩集卷下

雜

風 雲 晴 曉 松 竹 子 鶴 梅  
 管 絃 竹 葉 妓 文 詞 竹 葉 文 酒 山 竹 山 水  
 水 竹 漁 父 禁 中 古 象 古 象 竹 葉 花  
 仙 象 臣 備 士 山 象 田 象 障 象 山 象  
 仙 事 傷 采 石 曉 空 鍾 子  
 行 旅 庚 申 帝 王 竹 法 空 親 王 什 孫  
 孟 桐 竹 獲 豕 羽 軍 刺 史 後 史

用 永 下

三 十 下



玉照君 妓女 施女 主人 交友  
情舊 述情 夢笑 後 恋  
無夢 白

雜

風

春風暗勢 意若對 影自偷 穿石之若 輔倡  
入松易 宛然 恨明 志之 魂 逐 水 歸 紀納言  
意 是 列 子 之 案  
漢 之 中 吹 而 強 徐 君 塚 之 庭 於 幾 保 胤  
班 姬 裁 扇 意 誇 尚 列 子 熱 車 不 世 遠  
あきこうせのあくまつけくもとハ奴ら  
杉子のもあありハをとなしそあり  
ほめくとあり何計の月此月うけな  
かきちあきこちるはのちるのうを 信明  
中務

月詠下

三十一































轉來猶ほし橋花葉如舊危幾全  
命亦し泊燈波惟新

山後山何工制來を爰、秋より後全

ふ誰家深か哀深しと  
山部を樹に字か海原松村日暮時直幹

山本向背神功表水似也依迂來間 後江相公

神ありのこむろのまじやくつとて

きつこの川流ふのわらじりふ 高草春

ふ片波

雲塊し牧る乳明を河明く行ぬ 謝 観

心帆波去を鳥春  
所出社ふ社ふ出河原琴巻酒初成白

帆兵言まふ中を衣影若物に重なる全

ふ羽鳥 穿也底月暮紅梅入 女遊去全

二松野道抄のま濃酒難能 無流 歌流 歌 替首雀

第志屋 杉雅人 高志屋 牛之 杉水 菅

見お河 牛之 高志屋 杉水 菅

意約若ふの魚晴思浮杜し 全

梅標を唯字をを成 福名し 後江相公

河次刻印 跡地外ふ 庭控云 存ふ 時 後江相公

日物波来 孤島を 風吹を 走 其 帆を 平体 轉

と せ なる こと あり こと なる 水 け  
ちりうら ちりうら ちりうら ちりうら 伊勢



又あつてはささめくはれはあつたり  
あつてはささめくはれはあつたり

好忠

持中

風使海面影移月沈寂あはれを白

結月ささめくはれはあつたり

三子仙人浪跡地會え角角多佳色 章孝標

結人曉唱あつたり 眠るは佳歌 都良香

此言激晴ささめくはれはあつたり

あつたりはささめくはれはあつたり

あつたりはささめくはれはあつたり

あつたりはささめくはれはあつたり

中務

あつたりはささめくはれはあつたり

藤原経臣

古奈

あつたりはささめくはれはあつたり

あつたりはささめくはれはあつたり

あつたりはささめくはれはあつたり

あつたりはささめくはれはあつたり

あつたりはささめくはれはあつたり

あつたりはささめくはれはあつたり

あつたりはささめくはれはあつたり

湖林下

四十







高の月為秋發の親水波揚方身片後江想  
吾酒を飲りて酒咽た山世をこめ中し紀  
通交能深社洞月夜既まき折の墨管三品  
好ましく中やちんれまのまのまのま  
いゝゝゝこれらあ世を及めゝゝゝ 素性

山家

道中より詩歌枕施ま極ま君扱差着白  
華省花時深帳下意を白の秋ま着白  
深定晚和分酒飲牧まを為倚年吹杜荀崔  
君あまま之ま府君公務恨唯ま記管三品  
起て賓社中一及て市女出別巻始  
強をまあ神之主

南中より詩歌枕施ま極ま君扱差着白  
華省花時深帳下意を白の秋ま着白

白鶴道中お朱櫻まあ

山崎口ま着為耳若棋取牧笛まあ  
洞戸ま蹄鹿眼若非怪抄勢まあ

むるま友まま強以表揚家鶴上殿  
時好まま山修補まあ初白あ入の流

福名まま中ま生花上街まあ曉月まあ  
山所まらまのまあひまあまあまあ

よのうまきまあまあまあまあまあ  
山まままハあまままあまあまあ

人め七ままもま色ぬとあの人

宗干



田家

葛城後山 拙子猶言 冠裾帯 辰彩露 白  
 宵家一犬 迎久吠 寂寂 冠未引 續休 都良香  
 中砂印 田桑多 熟山 睡甲日 猶お風 紀存名  
 着索村 風吹 葉多 暮涼 後舟 掛お程 高相如  
 たるの 田を人子 傳くをく くれましく  
 は 好子 さらけ せつら くらう 邪一 荷富内符  
 因まさ 八さあ へし しく おひぬ 全一  
 あ免おし むおこ 八さ けり ささあん 貫之  
 きの ちをそ さまん とう けり けり のふ  
 いあま ともあ ともく おま とも のあ 敏行

隣家

明月好日 三津 龍跡 揚巻花 赤露 全 白  
 の 獨 於 舟 敷 お 足 ち 糸 毛 作 隔 埔 人 全  
 沈 遠 ぶ 采 其 向 人 笑 在 陸 法 若 卜 後 菅 三 品  
 茂 我 波 吹 ち 愁 憂 由 家 柳 多 赤 露 全  
 去 姓 迎 儀 着 ち 之 流 浪 滯 ち 梳 之 夢 直 轄  
 ころん ち ち とい ち 念 ころん ち ち ち ち 直 轄  
 うん ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち 伊 勢

山寺

子株 松下 斐 峯 ち ち ち ち ち ち ち ち ち 白  
 又 せ 修 地 尚 又 眼 但 ち ち ち 色 洗 露 全  
 ち 及 朝 ち ち ち 役 化 赤 車 ち 赤 ち ち 野 相 公  
 閑 水 ち 橋 ち ち ち ち ち ち ち ち ち







法流を消敬并に... 保胤

破關芥鷲の志

今程由... 野相公

此書... 保胤

以祈... 保胤

已終... 保胤

のり... 保胤

あ... 保胤

つ... 保胤

この... 保胤

と... 保胤

あ... 保胤

つ... 保胤

この... 保胤

村上御製

傳教師

張読

保胤

月詠下

四十五







海門海流多於日燕夜之表林松表以言  
つるやとらみらふあきさきくわれよきう  
つるやとらみらふあきさきくわれよきう  
遍照

眺望

風就白浪むあけを懸きとて白  
出葉園の由里山景事柳手根之  
跡發巖石而散家つ忠及松樹之  
見とるあしきま緩百十め久波白  
也あ味之を樹百あ万葉歌  
江島福浦人松を湖水連之乃懸  
一好料名中瑞城二月詔む世  
却船易運跡の好ま真如葉文功  
直幹 順 篤茂

兄つるをハやあ兒さうとせと死あきく  
とやこそさるのゆゑとありける 素性

後別

与志好會知何れ為家と於表一  
お道程を就思お存あしき  
玄劫をさる強旅の體と  
骨氣丹多疑すは旅十あ  
促益然然なるか三  
揚波松清なるさ  
人しと家河日  
万里東来何毎日一  
此技焼香唯新境一  
野相公 菅



歌の浮生はねむきまをゆゑ火の風致一全  
 地はのちこころをさうめはさうしと  
 あよるるらんらんひのししを  
 らしむるるのさうれとあをれと  
 人よとらるる人そしとらるる  
 いのちこころさうさうあよりのあふ  
 あようらうらうのうけしとらるる  
 直幹  
 元真  
 白女

好歌

孤彼宿時風草のま帆ゆま水連を  
 行くまひりく月夜と院まのま  
 晴く法物くも風浦ま喜ま  
 院のま行る洞裏ま制る院積の歌  
 許渾  
 順  
 為雅

宿時浦く波ま風吹く皓月次  
 波口郵紙凡空出波院偏和日晴有野相公  
 洲意能白化は波為粒粒凡ま毫痕直幹  
 奈波改まをま白青山深ま一形全  
 なのくとあふまはらうのちまきんらま  
 しまうこれのまのまをま  
 まこのまらまをまけまはぬと  
 人中まつけまあまのつりあひ  
 たよりあふらいうまをまつけま  
 るましとらんのせだはこえぬと  
 兼盛  
 人丸  
 篁  
 兼盛

年長あま推甲ま歌ま和まの  
 庚申許渾

月永下



己商自漢の月か庚申初子曉光生 菅  
杞さかろのえ所るうこねさつりか  
あさやうたつらうをやうたあつ  
いふあをひとらもとりんあ中しんを  
杞もつぬなるのえさるやうさを  
と歌い

考更付はる

漢書とら尺の割唯制張氏一書 後漢書  
と書とやしつ

項在と云鶴の寄情旅つるるる全  
漢程と云漢程傷あおはるる凡  
は海あ危思中内百五理机然之平 白  
あはるる化机機色向と人 全

屋皇自在若生力あ向 董兼王母承 楊衡  
仁漢秋海漸とああ茂 並波中しん 紀淑望  
漢書仲衛とるる用口砂書お数  
と項洋と漢身  
梁之昔掩去ま月 形為用機形去 菅三品  
知毎とるる形  
事段とるる風流未必歌か 萬國とるる 全  
若け地や好文と世 治化未必光于  
黄堂とるる若るあ也  
某破和とるる 楽事とるる 門 後江相公  
望南信とるる 百と形 晴法とるる  
玉扇日成又風見 形 族 凡そ 西院揚 伊周

一册下

一册



刑報(前)朽(後)を(後)致(後)保(後)も(後)江相公  
なる(後)ハ(後)つ(後)よ(後)さ(後)し(後)や(後)この(後)も(後)れ(後)あ(後)る(後)この(後)の(後)  
い(後)ま(後)と(後)も(後)く(後)し(後)は(後)く(後)や(後)この(後)も(後)  
ち(後)の(後)め(後)れ(後)を(後)あ(後)こ(後)ろ(後)ち(後)る(後)ハ(後)さ(後)れ(後)ぬ(後)る(後)ら(後)う  
あ(後)と(後)も(後)の(後)こ(後)ら(後)の(後)あ(後)と(後)の(後)あ(後)ら(後)む(後)む  
小松天皇

親王付王孫  
庫(中)秋(中)華(中)半(中)の(中)ま(中)移(中)細(中)る(中)嘉(中)永(中)白  
東(中)平(中)蒼(中)く(中)雅(中)を(中)穿(中)り(中)死(中)體(中)を(中)後(中)半(中)を(中)管(中)三(中)品  
夢(中)と(中)身(中)不(中)柱(中)物(中)深(中)く(中)又(中)稱(中)を(中)を(中)あ(中)り(中)す  
花(中)も(中)す(中)や(中)ハ(中)ら(中)る(中)や(中)  
は(中)ら(中)る(中)は(中)幼(中)捷(中)也(中)七(中)尺(中)屈(中)凡(中)そ(中)は(中)る(中)順  
誰(中)も(中)し(中)求(中)非(中)仙(中)也(中)一(中)旦(中)中(中)事(中)し(中)ら(中)何(中)事(中)

写(中)る(中)と(中)知(中)る(中)を(中)る(中)は(中)凡(中)此(中)の(中)野(中)池(中)中(中)保(中)胤  
形(中)之(中)多(中)の(中)先(中)何(中)ぶ(中)格(中)也(中)花(中)凡(中)ア(中)行(中)格(中)雅(中)規  
此(中)花(中)凡(中)是(中)人(中)向(中)花(中)慶(中)樹(中)枝(中)以(中)身(中)二(中)也(中)後(中)江(中)想  
い(中)と(中)那(中)是(中)人(中)る(中)格(中)也(中)多(中)者(中)者(中)ア(中)り(中)あ(中)菅(中)三(中)品  
い(中)ら(中)る(中)や(中)ら(中)る(中)の(中)と(中)ら(中)は(中)の(中)と(中)は(中)は(中)く(中)は(中)く(中)を(中)  
こ(中)う(中)の(中)也(中)も(中)も(中)の(中)こ(中)の(中)ハ(中)ら(中)る(中)れ(中)免(中) 達(中)ノ

皇(中)相(中)日(中)後(中)級  
季(中)文(中)の(中)あ(中)ら(中)る(中)節(中)吾(中)人(中)の(中)あ(中)る(中)後(中)云(中)後(中)漢(中)昏  
孫(中)弘(中)乃(中)出(中)多(中)彼(中)及(中)遠(中)遠(中)も(中)多(中)罪(中)  
百(中)里(中)美(中)之(中)食(中)を(中)る(中)為(中)積(中)を(中)要(中)以(中)致(中)富(中)全  
威(中)何(中)身(中)於(中)也(中)下(中)格(中)也(中)何(中)以(中)因(中)  
孫(中)弘(中)因(中)家(中)を(中)守(中)無(中)事(中)得(中)亦(中)忙(中)也(中)後(中)人(中)白







判史

士め重なる事下失君重京称花あ白  
精向金海珠お似形刻段者刻ふめ士  
既三百老き法知る事あき辨け保胤  
一お白てまき御ゆ信きふ得回  
たうこたふのかりくこれハありと  
こののあくと山さといふより

仁徳天皇

神史

炊晴ぬの鹿氏波取深口面控手色 橘相公  
実存神武杖多高柱羊頭乳業と夫 紀在昌  
他日々述奉帝に多き御得は氏叙 紀納言

かものあらいふあをれと抄りか  
みとあふまうぬあ〜〜〜

朝岡

王歌夫

慈母幸難堪悔あゆむら以西京中 白  
此紀あゝの御行寄あゝあゝ他澄言 紀納言  
翠衣衣冠御浦抗法乃御室あゝあゝ 江相公  
ま月あゝの松丸流あゝ法深御海坊 全  
於南てあゝあゝあゝあゝ万里月あゝ物 全  
昭名あゝあゝ黄金破あゝあゝあゝあゝ 全  
別埋相室あゝあゝあゝあゝあゝあゝ 英明一  
影の晴俊あゝあゝあゝあゝあゝあゝ 全  
あゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ 実方  
あゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ

神史

五十二











法僕射を新我推為志の友  
裴文籍好第兼久管孔於孤人  
君とれいふるこころさうん  
しーの母こそあしゅうりー  
たきともーる人よきぬた  
るのしーれさあしーるよ  
村麻製  
丹風

懐旧

美壞能知象白沢枯  
後一遠知人又  
長秋君先玄孩の象  
後と下知人  
は夕時花於望及心  
抱来るる象

花物松故院院曉  
實者西心く他さ  
有梅翠月人月  
子子骨し身心  
月羊老傳し  
山  
但敷の木を  
いあこの  
りやのこ  
ひーと  
あ中く  
源相規  
野美材  
村上御製



よの申一あしきうらと井の人  
あまう抄りくもあつらなるか 為頼

述懐

昔然前以て感激復生協子と投以て後漢曼  
心為恩後氣依義壯  
花露収美句張素扇亦於此所著花全  
附記文ふ遠述か河  
毅て後傑家法若ふを遠流不文選  
陽若て舞色あ祝之邦若事知英  
雄し和源  
人用獨務忘邪料世之風波也勢白  
歩不讓病婦旅逸第之意家多持る 許渾

事く女成則也む研つふ雲旅行白  
花露収美指病婦と述名附而精功後江相公  
報記するも志  
野為生象和進也修骨ふ以端直幹  
有舞あしきうらと井と下くらと也  
庸才あしきうらと井と下くらと也  
歎亞航犯之て代るれ沈恨同化意橘正道  
引ふ嗚言ゆき  
言下晴生湖岸火美舟依泥刺火の春道  
我鬼一串け長探垂ふ受毒為免前登  
世三周醒沈何着因仰火肌未必賢橘候草







乃其美其意思寄一筆寄一而香潔白  
 思身一香勝焉人宜相愛也之  
 文家取新書の奥の而并月夜風松 張文成  
 空庭香のせ絶  
 乃其月夜松之香白  
 春風松香を寄る夕松露松相系為時全  
 夕向星露思情我路松松之由能成全  
 南翔也露那月之温か秋鳥来出死後江相公  
 清心寄露定於曉月  
 文以園中も露乾後是併打一松香 紀存名  
 を園指外に支妍而好着露松之清 采女  
 奥女凌空唯月之初娘境旧指波色 為憲

けり懸ハゆ〜物〜  
 ああせうとと抄の〜をうりそ 躬 恒  
 このあつ〜あふあ〜  
 あ〜と抄のあ〜ま〜のよ〜さ〜  
 の〜と〜の〜を〜ら〜は〜あ〜の〜この  
 あ〜の〜の〜月〜を〜ま〜ら〜の〜つ〜う〜れ 素 性  
 親則名親親根根痛流江久露あ舟羅胤  
 鳴床角と争河子心とま井 素性力白  
 生必減種名素性梅橙之 後江相公  
 手度新来三人 後江相公

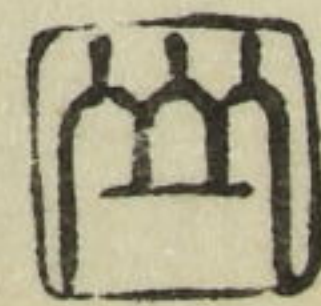






高伴寬翁校

文政第三龍集己卯原板



江戸本石町 英 平 吉

嘉永七甲寅仲夏永板

江戸芝神明前 和泉屋市兵衛



